



雲を耕す

第6号
平成23年11月発行

NPO法人 雲を耕す会

〒433-8105

浜松市北区三方原町 447-23

TEL/FAX 053-436-5221

URL <http://www.kumo-t.jp/>

自然はいろいろな試練を与えてくれます。時に優しく、時に厳しく、我々人間世界を見つめ、自然を忘れがちな心に警鐘を鳴らすのかも知れませんね。

自然と共存することの難しさを感じながら、忘れてはならない大事なことのために、頑張っていきたいと思えます。秋は魅力的なイベントがいっぱいです。山の澄んだ空気やあふれる恵みを体に取り入れましょう。これまでの会の活動状況や今後の予定など、情報満載の会報第6号をお届けしますので、どうぞご覧ください。

■天竜美林の魅力

理事長 大村 弘司

一度手を入れた人工林はずっと手入れをしなくてはダメになります。天竜区の森林は8割以上がその人工林で、我々も間伐の事業を始め、今現在も進めているのですが、やはりその道の長さへの遠くなる思いです。



しかしながら、材木を育成し、古来の住みやすい家屋や水源の確保、土砂災害の防止など多くの機能を持つ森林を守っていかなくてはなりません。

このために、微力ながらも間伐事業を続けることが、「雲を耕す会」の活動の義務だと思っております。

何かの雑誌で見たイノシシの言い分といった内容の記事を思い出します。農作物の被害状況の8割以上がイノシシのせいだと分析され、まさに害獣と言わんばかりに、イノシシが悪者扱いにされているという記事でした。イノシシの言い分としたら、生きていくためには必要最低限の行為であり、楽に食べ物が手に入れば利用するのが自然と考えているのです。人間とイノシシの縄張り争いは縄文時代からさうです。自然を享受する動物と人間が争うことのない天竜区にしたいものです。

天竜区佐久間に住み、山の自然と共存しながら、精力的に活動をされている富永副理事長。山の危機的状況を肌で感じる中の切なる声をお聞きください。

■危機的状況の中で

副理事長 富永 和範

私の居住する天竜区には55,000ヘクタールの人工の民有林があります。この人工林がきわめて危機的な状況にあることは、皆さんすでにご存知の事と思います。浜松を直撃した台風15号による、広範囲に及ぶ停電、道路の寸断などの被害のほとんどは人工林の崩壊によるもので、倒木、山腹崩壊、中小河川の氾濫、土石流等、目を覆わんばかりです。台風12号による紀伊半島の状況はさらに深刻で、いずれも全国有数の人工林地帯です。国策による拡大造林のなれのはてと云ってしまえばそれまでですが、広範囲に及ぶ国土の荒廃はいちじるしい環境破壊を伴います。この場におよんで政府は利用間伐などと、きれいごとをならべたてていますが、官僚のあさはかな発想といわざるを得ません。

この国は国の政策によって無惨にも崩壊します。

地球上に生命が誕生して40億年、その長い生命の進化の過程の中で、人間が頂点に立ったと自負するのであれば、地球上のすべての存在に対して責任を持つということではないでしょうか。

■講演会「天竜の森 パプアの森」

山が危機的状況にある…それを私たちは強く意識しなければなりません。



そんな心に強く働きかける講演会が、10/15(土)開催されました。講師は、我が「雲を耕す会」の会員でもある辻垣正彦さん。国産材で家を建てることにこ

だわって家作りをなさっている辻垣建築設計事務所の所長でもあります。国内のみならず、遠くパプアニューギニアの森の危機的状況にも心を痛め、パプアの森を守る活動もなさっている方です。

先ず現状を知り意識すること。声を上げること。そして行動に移すこと…これが我々の会に課せられた課題と言えますね。

・風渡り光あふれる中山の森へ

和(なごみ)の家に通じる山道を入っていくと、道の両側に広がっている場所が春野の中山の森。

ここで地道な間伐作業が続いています。最初は鬱蒼として暗かった森が、みるみる明るく変わっていく様



は驚くばかりです。狭い急斜面での作業は困難を極めます。この困難な作業をリーダーとして見事にこなしているのは、我が「雲を耕す会」の会員でもある鈴木末吉さん。この道50年以上のベテランの山仕事人です。山の歴史と共に生きてきた末吉さんは、山を知り尽くし、そして山をこよなく愛しています。一本の木を切るにも、木と対話し、木に教えられながらの作業だと言います。



伐採する木を選ぶ時は、その木が倒れる際、他の木を傷つけはしないか、高圧線にかからないかなどを考え、慎重に倒す方向を決めます。伐採した木を道路まで引き上げ、積んでいく作業も同じです。山の恵みを大事に扱います。木をカットする際も、その木の曲がり具合を見ながら即座に長さを決めていくのですが、その判断の速さと正確さに息を吞まずにいられません。

間伐作業は既に半分以上が完了しているそうですが、ベテランの山仕事人の手によって確実に森は生まれ変わっています。風が吹き渡り、光があふれる森は、下草も生え、木々もしっかり根を張ります。自然を脅かす台風にも負けない強い地盤を生み出すのです。(画像は、作業中の鈴木末吉さんと相棒の佐藤さん)



活動スナップあれこれ

7/28の蕎麦打ちの様子。11月には和の家で山の幸を楽しむ秋の収穫祭と称し会員交流会を開催します。



先生のお手本を真剣に



上手いかず先生のヘルプ



回を重ねた方の上達ぶり

【インフォメーション】

本会報記載の各種イベントや活動状況については、その都度、本会サイト(<http://www.kumo-t.jp/>)上に情報を公開しておりますので、是非ご覧ください。

今後予定していますイベントは以下の通りです。(詳細は別途ご案内します。)

- ・ 11/3(祝) 天竜産業祭参加(屋台出店)
- ・ 11/5-6 木曾御用林の集落を訪ねる研修旅行
- ・ 11/23(祝) 秋の収穫祭(会員交流会)
- ・ その他(蕎麦打ち、里山保全活動など)

※ 皆さんの参加を心よりお待ちしております。

※ アクセス方法等ご不明な点は事務局にご相談ください。

会報第6号発行を無事終わることができ、感謝いたします。中山の森の取材では、山仕事の大変さを知ることができ貴重な体験でした。

今後も皆さまからの情報をお待ちしております。

(2011.11.1 担当竹内)